

〈研究ノート〉

新約聖書「ヨハネの第一の手紙」における 裏返し構造

Berge が提示したキアスムス構造に基づく検証

大喜多 紀明

1. はじめに

物語のなかで、主人公が主人公にとっての異郷を訪問する形式を、とくに異郷訪問譚と呼ぶ。異郷訪問譚の形式の物語では、しばしば裏返し構造と呼ばれる構造がみとめられる。大林（1979）は、こうした裏返し構造の出現が、異郷訪問譚における構造上の「共通の約束」であるという仮説を示した¹。同時に、かかる大林仮説の射程について、大林（1979: 8-9）は以下のように述べた。

私は小論において、日本文学から口承文学にもとづくと思われる異郷訪問譚の例をとり上げ、そこには共通の約束があることを論じた。もちろん、これは日本の異郷訪問譚のごく一部にしか過ぎない。日本文学上の他の作品、また現在の昔話や伝説における異郷訪問譚にも、同様な構造がみられるかどうか、また異郷訪問譚以外にも、どのような説話にこの構造がみられるか、さらにこのような構造をもたない異郷訪問譚は、どのような構造をもっているのか、の検討は今後の課題である。

1 本稿では、これを「大林仮説」と呼ぶ。

大林仮説の蓋然性を検証した先行研究としては、異郷訪問譚形式の韓国神話（加藤 1979、依田 1982）、漫画作品（大喜多 2020a）、アニメーション作品（例えば、大喜多 2014）を検証したものなどがある。これらの先行研究においては、いずれも大林仮説の蓋然性の高さが支持された。

一方、異郷訪問譚以外に裏返し構造がみとめられるか、については、筆者による聖書テキスト（例えば、大喜多 2019a）およびアイヌ口承テキスト（例えば、大喜多 2016）に関する検証がある。当該先行研究によれば、異郷訪問譚とはいえなくてもかかわらず裏返し構造がみとめられる実例が示された。しかしながら、裏返し構造の出現が、当該種類のテキストにおける共通の特徴であるのか、を判断するにおいて十分な検証がおこなわれてきたとはいえない（大喜多 2016）。本稿では、異郷訪問譚ではないにもかかわらず裏返し構造が出現する傾向が高いといえるかについて、とりわけ、聖書テキストにおいて検証することを目的とし、いままで調査されていないテキストである「ヨハネの第一の手紙」を題材に検証をおこなうことにする。

2. キアスムスの下位概念としての裏返し構造

キアスムスとは、構文上にみとめられる修辞構造の一種である。松村（2020: 80）はキアスムスについて以下の説明をした。

分かりやすい例としては、J. F. ケネディーが 1961 年 1 月 20 日に大統領就任演説で用いた表現 Ask not what your country can do for you – ask what you can do for your country がある。この命令文では ask ~ can do という動詞句を持つ二つの文章が並べられているが、それぞれの your country と you, for you と for your country という対応する語句が前半と後半では入れ替わり、a, b, b', a' という形となっている。前半と後半で対応する要素の順番が交差してエックス (X) をなすこうした表現はキアスムス (chiasmus) と呼ばれることがあるが、それはギリシア語の χ の呼び方 (khi, chi) に因んでである。

前半と後半の対応する要素の数はさらに多い場合 (a, b, c, d, d', c', b', a') もあるし、中央に折り返し地点を入れる形 (a, b, c, b', a') もある。後者の形では中央の折り返し点に最も強調したい要素が置かれることが多い。中央に折り返しの要素があるタイプをないタイプと区別したい場合には、ある方を concentric と呼んで区別することもある。

つまり、村松（2020）は、下記のような要素対が同心円状に配列する構造をキアスムスと呼んだ。

$$A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow \dots \rightarrow X^2 \rightarrow \dots \rightarrow C' \rightarrow B' \rightarrow A'$$

また、中央の折り返し要素があるキアスムスをコンチェントリック（concentric）³ と呼び区別する場合がある⁴ことを述べた。本稿では、村松（2020）のキアスムスの概念を用いることとし⁵、要素対が同心円状（あるいは円環状）に配列した構造をキアスムスと呼ぶことにする。なお、本稿では、構造上の中央における対応を持たない要素の有無を区別せず、双方を共にキアスムスと呼ぶことにする。なお、キアスムスの規模においては、構文における語句レベルでみとめられる程度のもの⁶や、物語全般の構造にみとめられるもの⁷などがある。

以上を踏まえ、キアスムスにおける構造上の中央の前後の対応する要素対の関係がすべて対照的である場合、これを裏返し構造と呼ぶ。以下は、大林（1979）が示した、日本の異郷訪問譚である「イザナキの黄泉国訪問」にみいだされる裏返し構造である。

- A 出産：汚れにより文化の神生る
- B 神発生：肉体から殺害により発生
- C 応待：友好的・内
 - D 食物を食べる：煮たもの、女神は現世に還れない
 - X 腐敗した女神を見る
 - D' 食物を食べる：生のもの、男神は現世に還れる
- C' 応待：敵対的・外
- B' 神発生：外被から殺害によらず発生
- A' 出産：汚れの除去により自然の神生る

ここで示した「イザナキの黄泉国訪問」では、例えば、AとA'は「出産」がテ

2 ここでの「X」は、キアスムスの折り返しに位置する、対応を持たない要素を意味する。

3 日本語ではしばしば「集中構造」と呼ばれる。

4 例えば、森（2007）ではキアスムスとコンチェントリックを区別している。

5 村松（2020）はキアスムスにかんする網羅的な知見を示している。

6 かかる規模のキアスムスはしばしば「マイクロキアスムス」と呼ばれる。

7 本稿ではかかる構造レベルの規模を持つキアスムスを「構造レベルのキアスムス」と呼ぶことにする。

ーマであるが、Aが「汚れにより文化の神生る」のに対し、A´は「汚れの除去により自然の神生る」のであり、双方の内容は対照的である。このように、AとA´、BとB´、CとC´、DとD´というように、テーマが同心円状に配列しているのでキアスムスである。同時に、それぞれの要素はすべて対照的な関係にあるので裏返し構造でもある。

一方、例えば、上述のJ. F. ケネディーの演説の場合は、下記のように示すことができる。

A your country
 B you
 B´ for you
 A´ for your country

つまり、AとA´においては「your country」を、BとB´においては「you」を共通する語句とすることによりキアスムスが構築されているのであり、かかる要素対の関係は対照的であるとはいえない。したがって、この演説の箇所はキアスムスであるのだが裏返し構造ではない。

3. 聖書における裏返し構造とテキスト

1節で述べたように、異郷訪問譚ではないにもかかわらず裏返し構造がみとめられる事例は聖書テキストとアイヌ口承テキストにおいてみだされている。本稿は、聖書テキストにおける、かかる蓋然性を検証することを目的としている⁸。以下、新約聖書に収納された巻を列挙し、当該検証がおこなわれた先行研究を示すことにする。なお、先行研究が記載されていない巻については、現在まで検証がおこなわれていない。

8 聖書は新約聖書と旧約聖書からなるのであるが、本稿では新約聖書のみ注目し、旧約聖書には言及しないことにする。

巻	先行研究
マタイによる福音書	大喜多 (2022a)
マルコによる福音書	
ルカによる福音書	大喜多 (2018)
ヨハネによる福音書	
使徒行伝	
ローマ人への手紙	
コリント人への第一の手紙	
コリント人への第二の手紙	
ガラテヤ人への手紙	
エペソ人への手紙	
ピリピ人への手紙	
コロサイ人への手紙	
テサロニケ人への第一の手紙	
テサロニケ人への第二の手紙	
テモテへの第一の手紙	
テモテへの第二の手紙	
テトスへの手紙	大喜多 (2021)
ピレモンへの手紙	大喜多 (2019b)
ヘブル人への手紙	大喜多 (2021a)
ヤコブの手紙	大喜多 (2019a)
ペテロの第一の手紙	大喜多 (2022b)
ペテロの第二の手紙	
ヨハネの第一の手紙	
ヨハネの第二の手紙	大喜多 (2020b)
ヨハネの第三の手紙	大喜多 (2021b)
ユダの手紙	大喜多 (2020c)
ヨハネの黙示録	

上述のように、新約聖書には合計 27 の巻が収納されているのであるが、そのうちの 9 種類の巻では裏返し構造に基づく検証がおこなわれてきた。かかる 9 種類の巻を検証した先行研究では、当該巻のすべてにおいて裏返し構造をみとめる知見が示されている。本稿では、現在まで裏返し構造の観点による検証がおこなわれていない「ヨハネの第一の手紙」をテキストとし、これを検証することにする。

4. ヨハネの第一の手紙は異郷訪問譚であるか

通念によれば、異郷訪問譚とは、物語の主人公が、主人公にとっての異郷を訪問する物語の形式を指す。一方、テキストはそもそも著者であるヨハネが信徒に送った手紙であり、物語ではない。かかる通念に基づけば、当該テキストは異郷訪問譚ではない⁹。

5. テキストにみとめられるキアスムス構造

裏返し構造は、キアスムスの構造上の下位の概念である。テキストが構造レベルのキアスムスからなることを示した先行研究として、サーベイ論文である Jensen (2014) が紹介した Berge (1997) および Thomas (1998)、さらにそれ以外にも村井 (2021.6.17)、Bullinger (1999) などが知られている。

Berge (1997) が述べたキアスムスは次の通りである¹⁰。

- A The word of life 1.1-4
- B God is light 1.5-4.6
- B´ God is love 4.7-5.5
- A´ The witness of faith 5.6-21

Berge (1997) は、A「The word of life」とA´「The witness of faith」、B「God is light」とB´「God is love」がそれぞれ対応関係にあることからテキストが構造レベルのキアスムスからなると主張した。一方、各対応が対照的關係であるとは述べておらず、したがって当該構造が裏返し構造であるかどうかの言及もない。

Thomas (1998) は以下のような、AとA´、BとB´、CとC´、DとD´、EとE´が対応関係にある構造レベルのキアスムスを提示した¹¹。なおFには対応する要素がない¹²。

9 かかる点は本稿の前提である。

10 本稿ではこれを「Bergeの図式」と呼ぶことにする。

11 本稿ではこれを「Thomasの図式」と呼ぶことにする。

12 構造上の中央に相当する対応がない要素について、Thomasの図式では「X」ではなく、「E」の次のアルファベットである「F」を使用している。

- A —1.1-4—Prologue-Eternal Life
- B —1.5-2.2—Making Him a Liar (Walking)
- C —2.3-17—New Commandment
 - D —2.18-27—Antichrists
 - E —2.28-3.10—Confidence-Do Not Sin
 - F —3.11-18—Love One Another
 - E´ —3.19-24—Confidence Keep the Commands
 - D´ —4.1-6—Antichrists
 - C´ —4.7-5.5—God’s Love and Ours
 - B´ —5.6-12—Making Him a Liar (Testimony)
 - A´ —5.13-21—Conclusion-Eternal Life

なお、Thomas の図式は、当該対応が対照的であることについて言及しておらず、したがって、当該構造が裏返し構造であるかどうかの言及もない。

村井 (2021.6.17) は下記のキアスムスを提示した¹³。

- 1 命の言 (1:1-4)
- 2 罪の赦し (1:5-2:6)
- 3 新しい掟 (2:7-17)
- 4 反キリストへの警告 (2:18-3:12)
- 5 互いに愛し合う (3:13-24)
- 6 偽りの霊と真実の霊 (4:1-6)
- 7 神は愛 (4:7-5:5)
- 8 神の証 (5:6-12)
- 9 結び (5:13-21)

村井の図式の場合は、要素を表示する記号としてアルファベットを使用せず、数字を使用している。1と9、2と8、3と7、4と6が要素対を構成しており、5は対応がない要素である。かかる4組の要素対におけるそれぞれの関係性が対照的であるかどうかについて、村井の図式は言及していない。

Bullinger (1999) は下記のキアスムスを示した¹⁴。

13 本稿ではこれを「村井の図式」と呼ぶことにする。

14 本稿ではこれを「Bullingerの図式」と呼ぶことにする。

- A 1. 1-2. 11. CHRIST.
 B C 2. 18-29, ANTICHRIST.
 D 3. 1-24. LOVE.
 B C 4. 1-6. ANTICHRIST.
 D 4. 7-21. LOVE.
 A 5. 1-21. CHRIST.

Bullinger の図式は、A と A、B と B という 2 組の要素対によって構成されている¹⁵。なお、C および D は B を構成する要素であり、C と D は B を構成する要素である。Bullinger の図式では、各要素対が対照的な関係にあるか否かについて言及していない。

一方、Welch (1981) は、ペテロの第一の手紙、ヨハネの第二の手紙、ヨハネの第三の手紙とともに、当該テキストに対して構造レベルのキアスムスがみとめられることに、次のような否定的な見解を述べた¹⁶。

1 Peter, 1 John, 2 John and 3 John The remaining epistles of the New Testament to be discussed are 1 Peter and the Epistles of John. Chiasmus has not been detected in the general structure of any of these letters to any significant degree, which places these letters along with the few other nonchiastic epistle of the New Testament in a clear minority.

Berge の図式、Thomas の図式、村井の図式、Bullinger の図式を比較した場合、Berge の図式および Bullinger の図式の要素対が 2 組であるのに対し、Thomas の図式は 5 組であり、村井の図式は 4 組からなる。また、Berge の図式と Bullinger の図式には中央における対応を持たない要素が存在しないが、Thomas の図式および村井の図式には存在するという違いがみとめられる。さらに、Thomas の図式と村井の図式における中央の要素を比較した場合、前者は 3 章 11 節～18 節であるのだが、後者は 3 章 13 節～24 節であり、双方に違いがみとめられる。さらに、Berge の図式と Bullinger の図式における構造上の中央も異なっている。本稿では、こうした一連の

15 Bullinger (1999) は立体と斜体で、対応する要素を示している。

16 Welch (1981) は、ペテロの第一の手紙、ヨハネの第一の手紙、ヨハネの第二の手紙、ヨハネの第三の手紙に構造レベルのキアスムスがみとめられることに否定的な見解を示したが、本稿で紹介したヨハネの第一の手紙以外の 3 種類のテキストについても、かかる構造レベルのキアスムスを紹介した先行研究は存在する。

差異が生じる理由について述べることをしないが、かかる点が恣意性に起因する可能性を示唆するものであり、同時にこの点は、本稿の方法論上の課題でもある。

以上を踏まえ、本稿では Berge の図式を前提に、この構造を構成する要素対の関係を裏返し構造の観点から再検討することにより、テキストが裏返し構造であるといえるかの検証をおこなうことにする。

6. Berge の構造の再検討

Berge の図式は A と A´、B と B´ という 2 組の要素対により構成されている。

◆ A と A´

要素 A の範囲は、1 章 1 節～4 節であり、A´ は 5 章 6 節～21 節である。A に該当する箇所は以下の通りである（日本聖書協会 1989）。

初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について—このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである—すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。これを書きおくるのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるためである。

それに対し、A´ の該当箇所は次の通りである（日本聖書協会 1989）。

このイエス・キリストは、水と血とをとっておられたかたである。水によるだけではなく、水と血とによってこられたのである。そのあかしをするものは、御霊である。御霊は真理だからである。あかしをするものが、三つある。御霊と水と血とである。そして、この三つのものは一致する。わたしたちは人間のあかしを受け入れるが、しかし、神のあかしはさらにまぎっている。神のあかしというのは、すなわち、御子について立てられたあかしである。神の子を信じる者は、自分のうちにこのあかしを持っている。神を信じない者は、神を偽り者

とする。神が御子についてあかしせられたそのあかしを、信じていないからである。そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。これらのことをあなたがたに書きおくれたのは、神の子の御名を信じるあなたがたに、永遠のいのちを持っていることを、悟らせるためである。わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでになえられたことを、知るのである。もしだれかが死に至ることのない罪を犯している兄弟を見たら、神に願い求めなさい。そうすれば神は、死に至ることのない罪を犯している人々には、いのちを賜わるであろう。死に至る罪がある。これについては、願い求めよ、とは言わない。不義はすべて、罪である。しかし、死に至ることのない罪もある。すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。また、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている。さらに、神の子がきて、真実なかたを知る知力をわたしたちに授けて下さったことも、知っている。そして、わたしたちは、真実なかたにおり、御子イエス・キリストにおるのである。このかたは真実な神であり、永遠のいのちである。子たちよ。気をつけて、偶像を避けなさい。

ここで、Aでは、まず「永遠のいのち」が出現したことが述べられている。そのうえで、かかる「永遠のいのち」そのもの（つまりイエス自身）を伝えることの必要性が示されている。一方、A'では、「永遠のいのち」を受けた人間（つまりイエスを受け入れることで「永遠のいのち」を受けた人間）を証言する必要性が述べられている。つまり、AとA'は、ともに「永遠のいのち」をテーマとしているのであるが、Aではイエスそのもの（つまり受け入れられる側）を、A'ではイエスを受け入れた人間（つまり受け入れる側）を注目しており、双方の視点は対照的である。

◆ BとB'

Bの範囲は1章5節～4章6節である。それに対し、B'の範囲は4章7節～5章5節である。Bでは、神を「光」であるとしているのに対し、B'では神が「愛」で

あるとしている。神の属性のひとつが「愛」である¹⁷。一方、神の属性の象徴表現のひとつが「光」である¹⁸。ここで、Bにおける「光」は、神の属性そのものであるとはいえないが、B´における「愛」は神の属性である。つまり、BとB´は、ともに神の属性に言及しているのであるが、Bは象徴表現であるのに対し、B´は象徴表現ではない。かかる点是对照的な表現方法であるといえる。さらに、「愛」は精神的な作用の一種であるが、「光」は物理的な現象の一種である点も対照的である。

Bergeの図式は、AとA´、BとB´を要素対とするキアスムスである。さらに、上述のように、各要素対はそれぞれ対照的な関係である。2節で示したように、キアスムスにおける要素対の関係がすべて対照的である場合、これを裏返し構造と呼ぶ。このことから、Bergeの図式は裏返し構造でもある。

7. おわりに

異郷訪問譚では、しばしば裏返し構造がみとめられるのであるが、異郷訪問譚以外の構造において異郷訪問譚がみとめられるか、さらに、どのような種類のテキストではその出現の蓋然性の高さがみとめられるか、を検証することを目的に、本稿では聖書テキストを題材とした考察をおこなった。とりわけ本稿では、現在まで検証されていない新約聖書の巻であるヨハネの第一の手紙に関する検証を、Bergeの図式に基づいておこなった。本稿の知見によれば、Bergeの図式を構成するすべての要素対が対照的な関係にあることから、ヨハネの第一の手紙は裏返し構造であることがわかった。本検証により、新約聖書に収納された27巻のうちの10巻において裏返し構造がみとめられたことになる。引き続き、他の巻についても検証を進める予定である。

当該テキストでは、構造レベルのキアスムスとして、Bergeの図式以外にThomasの図式や村井の図式、Bullingerの図式が知られている。かかるThomasの図式、村井の図式、Bullingerの図式が裏返し構造といえるか否かについては今後検証するつもりである。

17 例えば、シュライエルマッハーは「愛」を神の属性のひとつとして位置付けている（例えば、高森1990）。

18 いのちのことば社（1981）は、ヨハネの第一の手紙に登場する「光」について、1章5節にかんする解説で次のように述べている。「光は神の真理、聖さ、正しさの象徴。この象徴はヨハネがしばしば用いる（ヨハ4、三19 - 21、八12）。」本稿ではかかる「光」を神の属性の象徴表現とみなすことにする。

引用文献

- いのちのこば社、1981、『聖書 注解・索引 チェーン式引照付』、いのちのこば社。
- 大喜多紀明、2014、「アニメーション映画『千と千尋の神隠し』にみられる二重の異郷訪問譚構造について：ミハイ・ポップの「裏返し」モデルを適用した場合」『国語論集』、11(11)、p.77 - 89、北海道教育大学釧路校国語科教育研究室。
- 大喜多紀明、2016、「アイヌ口承テキストに見られる裏返し構造：異郷訪問譚によらない事例」『北海道言語文化研究』、(14)、p.45 - 72、北海道言語研究会。
- 大喜多紀明、2018、「ルカによる福音書9章51節～19章46節にみられる裏返し構造：対称性仮説に関する検証に向けて」『人間生活文化研究』、(28)、p.610 - 618、大妻女子大学人間生活文化研究所。
- 大喜多紀明、2019a、「新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造：「物語」とはいえないテキストの事例」『人間生活文化研究』、(29)、p.15 - 21、大妻女子大学人間生活文化研究所。
- 大喜多紀明、2019b、「新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造」『人間生活文化研究』、(29)、p.293 - 298、大妻女子大学人間生活文化研究所。
- 大喜多紀明、2020a、「小山ゆう『チェンジ』にみられる裏返し構造：漫画作品における異郷訪問譚の事例」『人間生活文化研究』、(30)、p.146 - 150、大妻女子大学人間文化研究所。
- 大喜多紀明、2020b、「新約聖書に収納された「ヨハネの第二の手紙」の構造：裏返し構造をあてはめる観点からの分析」『人間生活文化研究』、(30)、p.308 - 311、大妻女子大学人間生活文化研究所。
- 大喜多紀明、2020c、「新約聖書「ユダの手紙」にみとめられる裏返し構造」『人間生活文化研究』、(30)、p.353 - 357、大妻女子大学人間生活文化研究所。
- 大喜多紀明、2021a、「新約聖書テキストにおける異郷訪問譚と裏返し構造の関係：「テトスへの手紙」と「ヘブル人への手紙」の場合」『人文×社会』、(4)、p.79 - 96、『人文×社会』編集委員会。
- 大喜多紀明、2021b、「新約聖書「ヨハネの第三の手紙」にみられる裏返し構造」『人文×社会』、(1)、p.451 - 459、『人文×社会』編集委員会。
- 大喜多紀明、2022a、「新約聖書「マタイによる福音書」における裏返し構造：James B. Jordan の図式に基づく検証」『人文×社会』、(5)、p.193 - 212、『人文×社会』編集委員会。

- 大喜多紀明、2022b、「新約聖書「ペテロの第一の手紙」における裏返し構造」『北海道言語文化研究』、(20)、p.1 - 19、北海道言語研究会。
- 大林太良、1979、「異郷訪問譚の構造」『口承文芸研究』、(2)、p.1 - 9、日本口承文芸学会。
- 加藤泰、1979、「済州島の二つの神話の構造分析」『民族学研究』、44(1)、p.83 - 90、日本民族学会。
- 高森昭、1990、「シュライエルマッハーの信仰論研究（その一）：神の属性に関する考察を中心に」『神学研究』、(37)、165 - 192、関西学院大学。
- 日本聖書協会、1989、『口語訳聖書』、日本聖書協会。
- 松村一男、2020、「三つの構造：キアスムス、プロップ、レヴィ＝ストロース」『和光大学表現学部紀要』、(20)、p.79 - 98、和光大学表現学部。
- 村井源、2021.6.17、「ヨハネの手紙一の修辞構造」『聖書の修辞構造』、http://bible.literarystructure.info/bible/62_1John.html (2022.8.12 閲覧)。
- 森彬、2007、『ルカ福音書の集中構造』、キリスト新聞社。
- 依田千百子、1982、「韓国の異郷訪問譚の構造」『口承文芸研究』、(5)、p.47 - 57、日本口承文芸学会。

- Berge, P. S. (1997). The Word and its Witness in John and 1 John: A Literary and Rhetorical Study, in F.J. Gaiser (ed.), *The Quest for Jesus and the Christian Faith* (St. Paul, MN: Word and World): 143-62.
- Bullinger, E. W. (1999). *The Companion Bible*. Kregel Publications.
- Jensen, M. D. (2014). The Structure and Argument of 1 John: A Survey of Proposals. *Currents in biblical research*, 12(2), 194-215.
- Thomas, J. C. (1998). The literary structure of 1 John. *Novum Testamentum*, 40 (Fasc. 4), 369-381.
- Welch, J. W. (1981). Chiasmus in the New Testament. *Chiasmus in Antiquity: Structures, Analyses, Exegesis*, 211-249. Maxwell Institute Publication.